

《第133回》飽田南校区第2町内子ども会（4）「どんどや」 育成会会長 中田 文寛

令和8年1月11日（日）10時より、地域恒例のどんどやを開催しました。

前日には保護者や自治会役員の皆様と協力し、竹切りや櫓の土台組を行いました。当日は子どもたちが12月に手作りしたしめ縄飾りを持ち寄り、藁運びも手伝いながら立派な櫓を完成させました。

点火の際には歓声が上がり、竹が燃える音が響く中、子どもからお年寄りまで地域の皆さんと一緒に無病息災と五穀豊穣を祈願しました。途中、雪が降る場面もありましたが、怪我もなく無事行事を終えることができました。

御神酒や温かい飲み物とともに、焼き餅や焼き芋を味わい、和やかなひとときを過ごしました。

“ちょうどいい田舎”の温かさに包まれながら、今年度も残りわずかとなりましたが、楽しく活動していきたいと思います。

ご協力いただいた役員・保護者・自治会の皆様に心より感謝申し上げます。



櫓の土台、骨組みは大人が





子どもはじめ縄飾りや
藁を櫓の中へ





点火！



〈事務局から〉

事務局長 白石和典

① 早速の活動報告有り難うございました。正月の伝統行事である「どんどや」は地域によっては場所の問題、少子高齢化の問題等々で実施できなくなっているところもあります。そんな中に、この様な広

大な田んぼの提供、地域の大勢の皆様の協力は大変素晴らしいです。

- ② 大人が櫛の基礎を作り、子どもが藁を中心に詰めるという役割分担も素晴らしいです。子どもたちは単に餅を焼く体験だけでなく、12月に正月のしめ縄飾りを作り、どんどやの櫛も作り、そこでしめ縄飾りを燃やして餅などを焼くという一連の貴重な体験が伝統行事を守っているのでしょう。
- ③ 育成会会長さんが「“ちょうどいい田舎”の温かさに包まれながら」と素晴らしい表現をしておられるように、正に温かみのある、生活に潤いがある地域のようですね。地域の皆様の絆と様々な取り組み「地域力」に敬意を表します。